



大杉谷国有林からの手紙



42通目

～木の実を運ぶ鳥たち

(貯食散布について)～

大杉谷からの手紙33通目で野鳥についてご紹介しましたが、大杉谷国有林にはまだまだ色々な野鳥達が森の中に生息しています。今回は、森を育てる鳥たちの魅力についてご紹介します。

(1) ヤマガラ

山の中を歩いていると、周囲の木から「コンコン、コンコン」と釘をハンマーで叩くような音が響いてきました。

何事かと周りを確認してみると、オレンジ色の鳥達が木々の間を飛び回りながら、一生懸命に木の実を割っている姿に出会えました。(写真1)

この鳥はヤマガラといいます。大杉谷からの手紙33通目でご紹介した「ヒガラ」と同じカラ類の一種です。都市公園などにもよく居る種類で人懐っこく、昔は神社等でお金をもらって、おみくじを引いたり小さな鐘を鳴らしたりできる芸達者な一面もあったそうです。今は鳥獣保護法で保護されている為、捕獲や飼育をすることは禁止されていますが、とても器用なところは野生のヤマガラでも見ることができます。鳴き声は「ツツピー」と鳴いた後に、「ニーニー」と鳴くので、見つけやすく親しみやすい鳥だと思います。



写真1 エゴノキの実とヤマガラ



写真2 種をくわえてるヤマガラ

写真2はコツコツと音を立てて割っていた木の実（エゴノキの実）をくわえているところです。写真1にも写っていますが、エゴノキの実はおいしいのでしょうか？

調べて見ると、エゴノキの実には白い部分にサポニンという毒が含まれているため食べるとエグ味があり、とても食べれるものではありません。(エゴノキの由来も「エグ味のある木」からきています)。

信じがたいのですがヤマガラはこの木の実が好物なのです！

ヤマガラはエゴノキの実を器用に足でつかんで白い部分を叩き割り、食べられる種子だけを取り出すことができ

ます。さらに、この取り出した実をすぐに食べるだけではなく、木の隙間や地面に埋め込んで、食料が少なくなった冬の間や早春の雪溶け後に食べる非常食にもします。本当に賢いですね。

また白い部分を除去した種子は発芽しやすくなるので、「ヤマガラが隠し場所を忘れた種はエゴノキに育ち」→「ヤマガラの食物が増え」→「また非常食として埋める」→「エゴノキの分布拡大」という循環が生まれているようです。お互いに利益のある「相利共生」の関係を築いています。

(2) カケス

ヤマガラが飛び去った後に「ジャー、ジャー」と濁声で鳴きながら、森の中を颯爽と飛んできた鳥が枝にとまってこちらの様子をうかがっています。(写真3)

この鳥の名前はカケスといいます。大きさは公園にいる普通のハト(カワラバト)と同じくらいで、綺麗な青い羽根があるのが特徴です。羽は黒くないですがカラスの仲間でもとても賢い鳥です。

食べ物は主にドングリや昆虫などを食べて生活しています。この子も

(1)でお話したヤマガラと同じで、ドングリ(ミズナラやカシの仲間)を地面に埋める、あるいは木の隙間に貯め込む習性があるため、ドングリを作る樹木の生育範囲の拡大に大きく貢献している一種です。ある種の樹木の生育範囲の拡大には、鳥は欠かせない存在になっているようです。

もう1つの得意技はものまねで、他の鳥の鳴き声や木を切る機械のチェーンソーの音、木がバキバキ倒れる音、時には人の言葉も真似をします。山の中で人気の無い場所に、急に人の声が聞こえたり、チェーンソーの音がすると驚くかもしれませんが、その間奏の部分で「ジャー、ジャー」と聞こえたら、近くでカケスが鳴いているのかもしれないですね。

まとめ

大杉谷では、増えすぎたニホンジカや他の動物により森が被害を受けている面もありますが、今回ご紹介したように樹木と野鳥の共生関係の一面もあります。被害を受けるところに目が行きがちですが、こうした一面も知っていただくとより理解が深まるのではないかと思います。



写真3 カケス

コラム

【森林再生応援団イベントを開催しました！】

9月28日（土）、林野庁三重森林管理署と環境省近畿地方環境事務所の共催で大台ヶ原森林再生応援団による植生の保護活動等を行いました。

生憎の天候ではありましたが、24名のボランティアに参加いただき、環境省近畿地方環境事務所が担当した防鹿柵内のトウヒの生育を助けるササ刈り作業と、三重森林管理署が担当したニホンジカによる樹木の樹皮剥ぎ被害を防ぐネット巻き作業を行っていただきました。

令和元年度「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団実施報告」

<<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/20191021.html>>

に掲載しています。是非ご覧ください。

発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官